

# 沿革

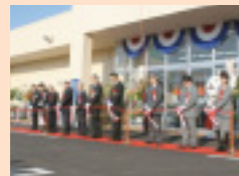
- 65 7月18日創立総会 10月1日創業開始 名称：生活協同組合市民生協  
店舗数2 組合員数1,000人 初年度事業高2億5,600万円
- 69 小樽市民生協と統合  
店舗数33 組合員数65千人 事業高82億円
- 70 旭川市民生協と統合
- 73 商品検査室設置
- 75 北海道知事より優良組合の表彰を受ける  
店舗数48 組合員数160千人 事業高375億円
- 77 CO・OP共済（火災、生命）扱いスタート
- 78 中央市民生協、函館市民生協と統合  
店舗数88 組合員数299千人 事業高745億円
- 79 真駒内団地生協と統合
- 80
- 81 協同購入事業月例配達 店舗遠隔地でスタート  
店舗数93 組合員数347千人 事業高1,000億円
- 86 店舗数122 組合員数530千人 事業高1,207億円
- 90 生活協同組合市民生協コープさっぽろへ名称変更  
店舗数126 組合員数673千人 事業高1,494億円
- 95 創立30周年  
店舗数116 組合員数782千人 事業高1,756億円
- 97 「おいしいお店」バージョン店舗改装スタート 協同購入事業での戸配事業スタート  
店舗数112 組合員数847千人 事業高1,577億円
- 00 生活協同組合コープさっぽろへ名称変更  
全国の生協とともに進めた「食品衛生法改正を求める国会請願」の署名にコープさっぽろ34万筆を提出  
店舗数87 組合員数884千人 事業高1,461億円
- 02 道央市民生協との事業提携  
「生鮮食品表示自主基準」運用  
店舗数65 協同購入支部数22 組合員数899千人 事業高1,502億円
- 03 釧路市民生協との統合、宗谷市民生協との事業提携  
第19回読売広告大賞「読者が選ぶ広告の部」で読者賞を受賞  
全国初、消費者が生産者におくる「コープさっぽろ農業賞」スタート  
北海道の「食の安全・安心条例」制定に向けて要望書提出  
店舗数71 協同購入支部数24 組合員数964千人 事業高1,624億円



みわ店(北見市)



東むろらん店(室蘭市)



星が浦店(釧路市)



ひとみ店(函館市)



ときわ店(苫小牧市)



開業第1号店の大学村店(札幌市)



「おいしいお店」第1号店の新道店(札幌市)



あかびら店(赤平市)最新店舗(2009年2月27日 OPEN)

- 04 第57回広告電通賞「北海道地区優秀作品賞」受賞  
「加工食品の原料原産地表示自主基準」運用  
店舗数71 協同購入支部数24 組合員数992千人 事業高1,719億円
- 05 宗谷市民生協との統合、コープ十勝・コープどうとうとの事業提携  
店舗数71 協同購入支部数24  
組合員数1,022千人 事業高1,800億円
- 06 道央市民生協・コープどうとうとの統合  
根室支庁に2店舗初出店  
協同購入・戸配事業の名称をコープ宅配システムトドックへ名称変更  
店舗数96 コープ宅配システムトドックセンター数32センター  
組合員数1,229千人 事業高2,160億円
- 07 コープ十勝との統合  
店舗数95 コープ宅配システムトドックセンター数26センター、5デポ  
組合員数1,304千人 事業高2,320億円  
(07年度の新店)  
6月 かじ店(函館)  
10月 ていね店  
11月 遠軽みなみ店  
2月 だて店
- 08 コープさっぽろ寄附講座開催(北海学園大学経済学部/酪農学園大学酪農学部 食品流通学科)  
レジ袋有料化スタート  
エコセンター始動(10/1)  
(08年度の新店)  
9月 みわ店  
10月 東むろらん店  
11月 ひとみ店  
11月 星が浦店  
2月 ときわ店  
2月 あかびら店

※年表示は年度を表しています。

# 第三者意見



国立大学法人 北海道教育大学 教育学部 札幌校  
総合学習開発専攻  
生活・食育グループ  
准教授  
佐々木 貴子

昨年に引き続き、第三者意見を担当させて頂くことになり、2008年度のCSRレポートを手にした時、「あれ？表紙のイメージが変わったかしら」と感じました。早速、ページをめくってみると、それぞれのページに掲載されている写真に目がとまりました。その写真の表情は皆、生き生きしているように見えました。昨年とは違う意気込みを感じながら、丁寧に読み進めていきましたが、読み終えた時に、今年度は「胸を張って正々堂々と前進しているコープさっぽろ」を実感しました。そして、その姿勢が今年度のレポートのキーワード“連・つながり”にあり、コープさっぽろの事業が着実に“人・モノ・コト”とつながってきた結果だとわかりました。

“人”とのつながりについてみると、組合員と生産者をつなぐ産地見学会や交流会が、さらなるアイデアを生み、商品の開発や環境に配慮した行動につながっていることを知りました。また、ニュースでも話題になっておりましたが、あかびら店のオープンは地域の高齢者の活力を生み出すものであり、まさしく地域をつなぐ大切な役割を担ったと言えます。

“モノ”とのつながりでは、これまでゴミと認識されていた廃食油の燃料化や間伐材の利用など、もったいない精神が環境貢献につながったように思います。さらに、道や各市町村とも協力して取り組んだ“コト”として、レジ袋の有料化がありますが、これは「コープ未来の森づくり基金」の設立につながったこともわかりました。

また、今年度の特徴には、北海道農業協同組合中央会(JA北海道中央会)、北海道漁業協同組合連合会(北海道ぎょれん)と連携した活動や室蘭工業大学や小樽商科大学との連携プロジェクトの実施などがあり、これらはコープさっぽろが北海道内の産業

や道民の暮らしに役立つ活動をしたいという願いの実現だと思いました。

一方、コープさっぽろの社会活動は、安心して暮らせる地域づくりをめざして継続的な活動が実施されておりました。昨年度、実施件数を報告するだけでなく、活動内容や参加者の意見も記述してほしいと要望を出しましたが、今年度のレポートには参加した方々の感想等が記載されており、活動内容をより身近に感じることができました。

「コープみんなでエコ！2008」(エコプロジェクト21)の22項目のアクションプランに取り組んだ結果をみると、22項目中、未達成マークは2項目のみでした。

以上のことから、今年度の掲載情報や取り組み内容は高く評価できると思いました。次年度も是非、この実績を踏まえて、活動の充実に向けた努力をしてほしいと思います。

最後に、トップ座談会でコープさっぽろ理事 組合員活動委員長の前濱喜代美氏が、「組合員も、一人一人が何かをすぐに始めなければいけない」ということは感じています。私たちが生活を変えること、つまり“食べ方”や“買い方”を変えただけで、もっと良い暮らし、未来に変えられることを一人でも多くの人に伝える活動をしていきたいと思います」と発言されておりました。私も同じ思いを持ちました。コープさっぽろは、130万人の組合員が役職員とともに手を携えてつくる組織です。組合員にも組織の一員として、環境に配慮した暮らし方をしていく態度が求められていると思います。コープさっぽろの活動を支えているのは、あくまでも一人ひとりの組合員であることを再自覚する必要があると思いました。